

ボタンの促成栽培

在 岡 孝 行

ボタンの開花促成は、すでに島根県大根島で実用化されているが、当園では年始から開催する展示会に開花株を展示する目的で、冷蔵処理による開花促進を行った。

材 料

20株を供試した。そのうち10株は昭和56年に開花促成処理を島根県大根島で行われ、昭和57年2月に開花した4年生苗(Aグループ)、残り10株は昭和57年6月に購入した3年生苗(Bグループ)である(第1表)。いずれも6月9日に露地畑に定植し通常の管理を行った。

冷蔵処理

9月20日に苗を掘り上げ、水洗後水苔で根巻きし、冷蔵庫に入れ冷蔵処理を開始した。冷蔵期間は45日間で、処理温度は5℃の恒温とした。処理中3回芽が乾燥しないようにシリンジを行った。

外気ならし

冷蔵処理終了日(11月6日)に、赤玉土、日向土及び腐葉土の混合用土を用いて、駄温6号鉢に定植し、11月10日までの4日間外気ならしを行った。

加温及び電照

11月11日にガラス室に入れ加温した。ガラス室の温度は、最低10℃、最高28℃とした。12月

12日から100 W白熱電球1灯を地上1.5 mの位置に設け、17時から22時まで電照を行った。花芽が開くまでの間、湿度を保つためのシリンジを行い、あわせて灰色カビ病予防のためダイセステンレスを散布した。

開 花

昭和57年12月16日に最初の開花が見られ、23日が3株と開花のピークであった。また、昭和58年1月8日の2株が最終花であった。残りの株は開花が望めないため、1月10日で調査を打ち切った(第2表)。

考 察

1月10日までの総開花株数は11株で、そのうちAグループが6株、Bグループ5株であった。供試株数が10株と少ないため、一概には言えないが、いままでの冷蔵処理報告に比べ開花率が55%と低かった原因として、1. 苗の生育状態が不揃いであった。2. 促成用として使われている日暮、花競などの早生品種だけでなく晩生種も使用し、品種を混用した。3. 冷蔵処理温度が5℃といくぶん高かった。4. 冷蔵処理後の加温温度が低いなどが考えられる。

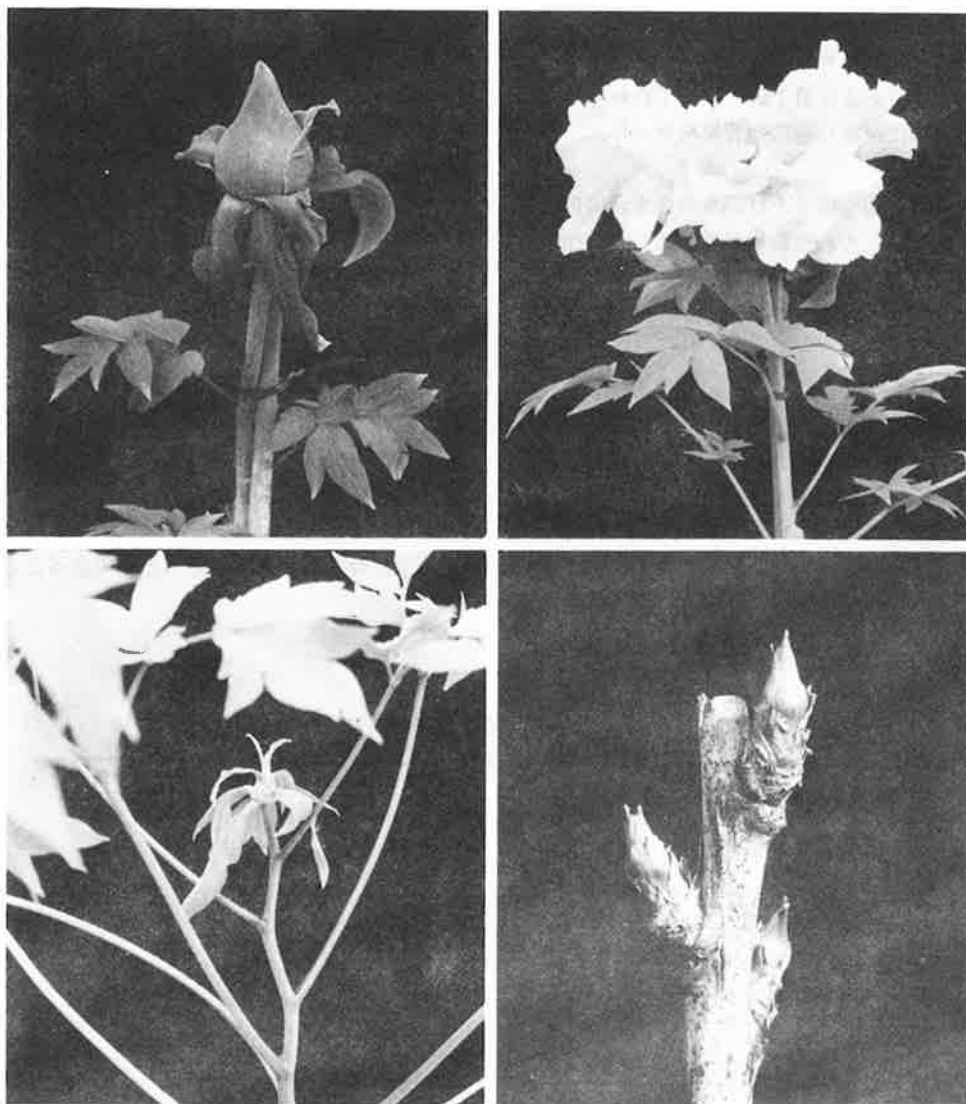
このことから、冷蔵処理による開花促進を行うにあたっては、生育状態の良い3年生以上の早生品種を用い、より低温で冷蔵処理したのち、15℃以上で加温すれば開花率を向上させ、ブラインドになる率も低くすることができると思われる。

第1表 供試品種とその性質

グループ	品 種	花 色	開 花	株 数
開花促進処理経験 グループ (A)	花 競 (I)	桃 色	早 生	3 株
	日 暮 (II)	紅 色	早 生	3
	花 王 (III)	紅 色	中 生	2
	五 大 州 (IV)	白 色	やや晩生	2
開花促進処理未経験 グループ (B)	花 競 (I)	桃 色	早 生	3
	日 暮 (II)	紅 色	早 生	3
	五 大 州 (III)	白 色	やや晩生	2
	佐 保 姫 (IV)	紫紅色	中 生	1
	金 鷄 (V)	黄 色	最 晩 生	1

第2表 開花日と品種

開花日	品 種	株 数
昭和57年12月16日	日暮 (A-II)	1
〃 21日	花鏡 (A-I)	1
〃 23日	花鏡 (A-I), 日暮 (A-II, B-II)	3
〃 27日	花王 (A-III), 日暮 (B-II)	2
昭和58年1月1日	花鏡 (B-I)	1
〃 6日	花鏡 (B-I)	1
〃 8日	五大州 (A-IV), 日暮 (B-II)	2
昭和58年1月10日調査		
ブラインド	花鏡 (A-I), 日暮 (A-II)	
葉のみ展開	花王 (A-III), 五大州 (A-IV, B-III), 花鏡 (B-I)	
萌芽せず	五大州 (B-III), 佐保姫 (B-IV), 金鶏 (B-V)	



上段左, 処理株の蕾 (花鏡) 右, 花鏡 (A-1) 12月23日開花株
 下段左, ブラインド株, 右, 未処理株の花芽 (12月23日撮影)